

嚥下や咀嚼, 保存,  
補綴, 口腔外科  
などのスキルを  
訪問診療で  
どう生かすか

訪問診療で  
口腔インプラントや  
ターミナルケアに  
どう関わるか

へき地では,  
どう訪問診療を  
進めるか

# 全部,

歯科が訪問診療でより活躍し,  
その可能性を広げる鍵が,  
ここに込められています

訪問診療での  
歯科衛生士の  
役割は

訪問診療  
対象の患者が,  
外食をするには?

# ここに

## 訪問診療での歯科臨床

在宅歯科医療をさらに高める

Clinical Questionsと Questions&Answers

戸原 玄・中川量晴 [編]

一般社団法人 日本老年歯科医学会 [監修]

B5判 / 176頁 / 定価 (本体 6,600円 + 税) / ISBN978-4-263-44589-1



# 書いてある

在宅歯科医療をさらに高めるためのエビデンスを示したCQと,

歯科訪問診療をより深めるためのQ&Aを集めました。

第1部 歯科訪問診療におけるClinical Questions

- 1章 歯科訪問診療における嚥下と咀嚼
- 2章 歯科訪問診療における保存治療
- 3章 歯科訪問診療における補綴歯科治療
- 4章 歯科訪問診療における口腔外科
- 5章 歯科訪問診療における口腔インプラント
- 6章 歯科訪問診療におけるターミナルケア
- 7章 歯科訪問診療への歯科衛生士の参加
- 8章 へき地の歯科訪問診療
- 9章 摂食嚥下障害に対する外食レストラン

**CQ 1-4** 咬合支持のない患者に義歯を製作すれば咀嚼機能は回復するか？

**解説文** 適切な補綴が必要である。

**解説文** 咀嚼においては、歯、舌、嚥下の筋が協調して咀嚼運動を行っている。そのため嚥下介助を含めた総合的評価、口腔機能の運動能力の低下、嚥下、嚥下時間など、さまざまな要因により咀嚼力の低下が生じる<sup>1)</sup>。

**解説文** 義歯だけを製作しても上記の口腔機能の問題が改善しなれば咀嚼機能が回復しない可能性がある。特に在宅患者は外来患者よりもOKと判断し、口腔機能が低下している可能性があるため、見極めが必要となる。そのため、口腔機能が低下している患者に義歯を製作する場合には、あらかじめ、「良いにはなれようにはなるとは時期がわかる」とし、「期間によっては再度義歯製作しても再度咀嚼の回復が期待できない」という前提で行う。なお、義歯を製作するだけでは効果が期待できず、咀嚼訓練により改善することもある。

さらに、前歯領域によって嚥下などの発知反応が生じている患者、機能的により咀嚼力が発揮されている患者では、咀嚼パターン自体が異なることがあっても、嚥下を期待して対応できるようにしても実際に患者で咀嚼が期待できないこともある。その際、嚥下期待が低い場合は咀嚼が期待しやすすが、その際患者はシェーパング産後群などの嚥下、咀嚼や嚥下の形態、咀嚼開始の遅延、水分摂取量の不足もある。

文献

1) Kizumi T, Tamao F, Nishiwaki K, et al. Oral motor function and masticatory performance in the community-dwelling elderly. *Odontology*. 2009; 57(1): 139-42.

● スコアの読み方 ● ● 図：治療内容に関する情報は図説的である  
● 実際の症例 ● ● 実例に関する図が一つ上にある

**CQ 1-5** 嚥下の評価にはスクリーニングテストだけで十分か？

**解説文** 摂食嚥下障害のスクリーニングテストで陽性である場合、認知機能などの評価をすべて実施がある。さらにはスクリーニングテストで陽性なくとも嚥下障害を疑わせる症状に対応が考えられない場合にはVETを行う。VETがない場合には、嚥下、嚥下の時間、嚥下の回数などを評価し、嚥下、嚥下の評価、嚥下の評価を嚥下障害の診断に活用する。

**解説文** スクリーニングテストはそれぞれ、感度と特異度が異なる。

**解説文** 訪問診療の現場では設備が限られているため、スクリーニングテストを使用することはもちろんである。しかし、スクリーニングテストで分かる情報は限定的なものであるため、それぞれの検査結果を踏まえて行うことが望ましい。嚥下で期待されるスクリーニングテスト(食行動検査システム(SAS)、フードテスト(FIT))、反復嚥下テスト(RST)<sup>2)</sup>の併用、嚥下テストの「予備性評価」の併用と特異度は2つのとおりである。図4として、RSTでは嚥下テストでは検出が難しい嚥下障害を捉え出す率は高いが、特異性が低い。RSTで陽性であったにもかかわらず多くの嚥下検査は必要になることとなる。嚥下障害を疑った場合には、嚥下検査はそれぞれスクリーニングテストで実施される。RSTでは、検査が可能な施設に限って、併用がなくても併用検査とスクリーニングができればよい。口腔機能が低下している場合でも実際のスコアも異なるため、口腔機能を評価した状態で実施するといふ。また、フードテストは

検査名	感度 (%)	特異度 (%)
食行動検査システム(SAS)	76	88
反復嚥下テスト(RST)	98	66
フードテスト(FIT)	71	62
嚥下テスト	87	89

第2部 歯科訪問診療とそれに関するQuestions & Answersおよび調査内容

- 10章 重度摂食嚥下障害患者に対する歯科介入状況および歯列不正を主とした口腔機能調査
- 11章 Information and Communication Technology (ICT) を用いた摂食嚥下障害治療について
- 12章 大学病院での訪問歯科診療の実際とリカレント教育状況事前調査について

関連図書 RELATED BOOKS



限られた時間・限られた器材で行う訪問診療における義歯修理のコツ  
水口俊介[監修]  
戸原 玄[監著]  
竹前健彦・野本亜希子[著]

訪問下だからこそ必要になる対応や臨床上のポイントなど役立つ情報が満載!

B5判/88頁/2色 定価(本体 4,800円+税)  
ISBN978-4-263-44501-3



訪問歯科診療ではじめる摂食・嚥下障害へのアプローチ  
植松 宏[監修]  
戸原玄・野原幹司・石田 隆[編著]

訪問歯科診療の患者さんは多くが摂食・嚥下リハビリテーションを必要としています。

B5判/164頁/2色 定価(本体 4,600円+税)  
ISBN978-4-263-44249-4

歯薬出版 ご注文承り書

訪問診療での歯科臨床 在宅歯科医療をさらに高める Clinical Questions と Questions & Answers 客注445890 ( )冊

限られた時間・限られた器材で行う訪問診療における義歯修理のコツ 客注445010 ( )冊

訪問歯科診療ではじめる摂食・嚥下障害へのアプローチ 客注442490 ( )冊

<p>● 納入店ご指定希望 (ご指定納入店名)</p> <p>※納入店のご指定の場合手数料はかかりません。</p>	<p>● 直送希望 (2つの方法からお選びください。)</p>	<p>① <input type="text"/> 代引 450円</p> <p>② <input type="text"/> 後払い 400円*</p>	<p>※②の後払いの請求書は(株)ネットプロテクションズから別送となります。</p>
---	---------------------------------	---	--

● お名前

● TEL

● ご住所 (〒 \_\_\_\_\_ )

★必要事項をご記入のうえ、FAX 03-5395-7633 にご送信ください。★弊社ホームページ <https://www.ishiyaku.co.jp/> からご注文いただけます。